

全農協労連第88回 メーデースローガン

「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」

農協労働者

北海道単位農業協同組合・農業共済組合
労働組合連合会（道農協労連）機関紙
毎月1日発行 1部30円
札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル4階
Tel. 011 (232) 0676
Fax. 011 (232) 2355
URL: http://donokyororen.jp
E-mail: mail@donokyororen.jp
発行責任者 九村 信吾

第21回全道若者のつどい



同世代で悩みを交流 一定時で帰れる職場を

道農協労連は、4月22日に札幌市で「第21回若者のつどい」を開催。つどいには、全道から14単組34名が参加し、学習と交流を行いました。

「辞めない職場、病まない職場」が重要

「私たちの『働き方』とこれから」と題した星野慧氏（全農協労連青年部事務局）の講演では、実際に全農協労連に寄せられた相談事例を紹介。星野氏は、全国的に若い職員が退職する事例が多いと指摘し、「人が辞めるといことは、単純に人手が不足するというだけではなく、経験や知識がリセットされるといこと。人が『辞めない職場』、病まない職場」をつくるのが重要」と強調しました。また、職場での労働者の権利行使の必要性を訴え「自分たちが権利を行使することは、次世代の人たちにとって働きやすい職場環境の構築に繋がる」と述べました。自分たちの職場が抱えている問題と合致する紹介事例などもあり、参加者からは



長時間労働はどの職場も共通の悩み

参考になったという感想が出されました。星野氏の講演後には、沼田拓也氏（全農協労連青年部事務局次長）から、全農協労連青年部活動に参加した感想や活動報告が述べられました。

2017春闘 きたみらいベア 1%獲得

4月に入り、春闘要求10単組、回答引き出し8単組となっています。妥結した単組、回答を受けている単組の中には、賃上げを実施する単組や諸要求で前進回答を勝ち取っている単組も出てきています。

2017春闘要求・回答一覧 4月22日現在

きたみらいベア要求実を結ぶ

きたみらい農協労組（山本俊治委員長）は、これまで経営者に対し、ベア実施を毎年要求してきました。その結果として、今春闘で約1%のベアを獲得しました。今回のベア実施の背景には、「現在45:55の厚生年金負担割合を折半に変更する」という提案と引き換えにはありますが、労組は本俸引上げを重視し、実施に踏み切りました。

今金 住宅手当8年連続増計(5,000円)

今金町農協従組（水本和芳委員長）は、今春闘で住宅手当一律2万円以上を要求。要求額には届かなかったものの、1,000円増を勝ち取り、8年連続で住宅手当の増額となりました。この8年間で勝ち取った増額は6,500円と

道北なよろ 準職員の正職員化を実現

道北なよろ農協労組（河西伸拓委員長）は、農協職員資格認定試験中級を取得している準職員の正職員化を要求し、対象者3名の正職員化を実現しました。また、人間ドックオプション検査の助成拡大（検査費用半額助成）を勝ち取っています。

3年連続でベアを実施

ようてい農協労組（浅野孝一委員長）は、3年連続でベアを実施し、賃上げ率1%を獲得しました。

青年部活動を必要とする声広がる

た。この他、他部署とのコミュニケーション不足や引き継ぎの問題、本所・支所間の職場環境の違いなども出されました。青年部活動の必要性については、回答者30名中23名が「必要」と回答。回答理由として、「同世代との交流をもっと増やしたい」が最も多く、中には「自分の職場に同世代が少ない為、近い視点で話し合える場が欲しい」という感想もありました。一方、青年部の必要性については「どちらとも判断できない」と回答から、「若い人だけで集まってもどうにもならない」「労働組合があるだけでは十分」という声も出されました。若者のつどいに対する感想では、分散会に数多く出されました。